



仲道郁代
The Road to 2027
リサイタル・シリーズ

The
Ikuyo
Nakamichi Road
to
2027

2025年シーズン

仲道郁代 The Road to 2027

リサイタル・シリーズ

全プログラム



「夢は何処へ」
2024年6月2日
サントリーホール
©N.Ikegami

春
のシリーズ

音楽を哲学的に探求するシリーズです。ベートーヴェンのピアノ・ソナタを核に据え、ベートーヴェン以前・以後の作品とともに各回のテーマに迫ります。

秋
のシリーズ

ピアノという楽器を味わい尽くすプログラムが並びます。より限定された“親密な”空間で、ピアノの表現の多彩さ、細やかさを味わっていただくシリーズです。

The Road to 2027リサイタル・シリーズは仲道郁代がベートーヴェン没後200周年と自身の演奏活動40周年が重なる2027年に向けて企画した、10年にわたるコンサートシリーズです。[春のシリーズ]と[秋のシリーズ]からなり、本人が自身の芸術性がここに全て表れると語るとおり、一つ一つの公演には仲道の音楽哲学が凝縮されています。2027年とその先へと向かう仲道郁代の旅路を、ぜひ一緒にご覧ください。

パッションと理性

モーツァルト：
ピアノ・ソナタ K.310
ベートーヴェン：
ピアノ・ソナタ第23番
「熱情」 Op.57
ブラームス：
ピアノ・ソナタ第3番 Op.5

2018

ショパン

～プレイエルの響き～

ショパン：
バラード第1番 Op.23、
バラード第2番 Op.38、
バラード第3番 Op.47、
バラード第4番 Op.52、
24の前奏曲 Op.28

夢は何処へ

ベートーヴェン：
ピアノ・ソナタ第27番 Op.90、
第13番 Op.27-1、
第14番「月光」 Op.27-2
シューベルト：
ピアノ・ソナタ第18番「幻想」
D894 Op.78

2024

シューベルトの 心の花

シューベルト：
4つの即興曲 D899 Op.90、
4つの即興曲 D935 Op.142

悲哀の力

ベートーヴェン：
ピアノ・ソナタ第8番「悲愴」 Op.13
ブラームス：8つのピアノ小品 Op.76
シューベルト：ピアノ・ソナタ
第19番 D958

2019

シューマンの夢

シューマン：
アレグロ Op.8、幻想小曲集
Op.12、予言の鳥 Op.82-7、
ピアノ・ソナタ第1番 Op.11

高雅な踊り

ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ
第24番「テレーゼ」 Op.78、
第25番 Op.79、第26番「告別」
Op.81a
リスト：メフィスト・ワルツ第1番
「村の居酒屋での踊り」 S.514
ラヴェル：優雅で感傷的なワルツ
ショパン：ワルツ「告別」
Op.69-1、ワルツ Op.64-2、
ポロネーズ第6番「英雄」 Op.53

2025

ラヴェルの狂気

ラヴェル：鏡、水の戯れ、
夜のガスパール

音楽における 十字架

ベートーヴェン：
ピアノ・ソナタ第22番 Op.54、第21番
「ワルトシュタイン」 Op.53
ショパン：2つのノクターン Op.48
シューマン：
ピアノ・ソナタ第3番 Op.14
2028年3月に延期（会場未定）

2020

ドビュッシーの 見たもの

ドビュッシー：前奏曲集 第1巻、映像
第1集、映像 第2集、喜びの島



「The Road to 2027」からの
初のライブ・レコーディング

幻想曲の系譜

～心が求めてやまぬもの～

モーツァルト：幻想曲 K.475
シューマン：幻想曲 Op.17
ベートーヴェン：
ピアノ・ソナタ第28番 Op.101
シューベルト：さすらい人幻想曲
D760 Op.15

2021

幻想曲の模様

～心のかけらの万華鏡～

ブラームス：2つのラプソディ
Op.79より第1番
シューマン：クライスレリアーナ Op.16
ショパン：幻想曲 Op.49
スクリャーピン：12のエチュード
Op.8より第1番、第12番、
幻想曲 Op.28

令和3年度
文化庁芸術祭
「大賞」
受賞

知の泉

ベートーヴェン：
ピアノ・ソナタ第17番「テンペスト」
Op.31-2
ショパン：バラード第1番 Op.23
リスト：ダンテを読んで S.161-7
ムソルグスキー：
組曲「展覧会の絵」

2022

前奏曲～永遠への兆し～

ドビュッシー：前奏曲集 第2巻
ラフマニノフ：前奏曲集 Op.23より、
第2番・第5番・第7番
前奏曲集 Op.32より、第2番・第5番・
第8番・第10番・第11番・第12番
前奏曲「鐘」 Op.3-2

劇場の世界

ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ
第19番 Op.49-1、第20番
Op.49-2、第18番 Op.31-3
シューマン：パピヨン Op.2、
謝肉祭 Op.9

2023

ブラームスの想念

ブラームス：7つの幻想曲 Op.116、
3つの間奏曲 Op.117、6つの小品
Op.118、4つの小品 Op.119

思索するピアニスト NAKAMICHI

仲道郁代のベートーヴェン演奏が進化・深化し続けている。それはまさに音楽修辭学の実践だ。バロックの音形論とか情緒論といった厳格な理論ではなく、むしろ詩学でいうトポスの探索だ。どんな小さな音形や主題にも意味があり、特定の情念を喚起させるという仲道の演奏姿勢がもたらすベートーヴェン解釈が説得力をましている。シリーズ各回につけられたテーマそのものがすでに一つのトポスとなっている。

平野 昭（音楽学者・評論家）

「The Road to 2027」のプログラムを見て驚いた。毎日が考え抜かれた組み立てで、しかも仲道さん自身によってテーマが掲げられている。このテーマの下でこの曲が演奏されるのなら、哲学をやってきた私にも語ってみたいことが山ほどある！ 何しろベートーヴェンは、音で哲学しちやうた人なのだから。かくして毎年私ども慶應義塾大学文学部に仲道さんをお招きし、その年のテーマに合わせたお話を伺いながら一緒に議論させていただく至福の時をすごすこととなった。真摯にしてたゆまぬ探求心に裏打ちされてますます奥行きと深みを増す仲道さんのベートーヴェンは、毎回新たな発見に立ち満ちている。

齋藤慶典（哲学者・慶應義塾大学名誉教授）

「実体のあるものも、ないものも音に変換されてそこにあるかのように立ち昇る……」、と仲道郁代さんはドビュッシーの本質を語っています。その演奏は、言葉通りに、作曲家が音に込めた微細な気配までも見事に映し出していました。音楽へのこの深い感応力が、ショパンやシューマンの魂の哀しみに、シューベルトやブラームスの真摯なひたむきさに、スクリャーピンの色彩にみちた神秘に、ラフマニノフの抒情の劇性に、ラヴェルの粋な佇まいの裏に隠された真実に……光を当ててくれることでしょう。

松橋麻利（音楽学者・ドビュッシー研究者）

仲道郁代の言葉

The Road to 2027の各プログラムに寄せた仲道の言葉から、抜粋でご紹介します。

パッションと理性

相容れない二つの概念の狭間そこには自らのあり方をレゾナドールを探る作曲家の姿が見えてくるそんな問いを放ち音の向こう側に聴こえてくる感覚に身を委ねる

悲哀の力

悲しみと哀しみこの二つの言葉が重なったとき実は 密やかな ささやかな抵抗の力を感じるのだ悲哀の中から立ち上がる力というのがそこには必ず潜んでいる

ドビュッシーの見たもの

音は空気に溶けている音の分子は空気の形を造りだす音の分子の連なりは 光を生み 躍動する現在 過去 未来も自在に越えさせてくれる変化自在な具象と抽象変化自在な現実と幻想それらが音のプリズムになって香りたつその音のプリズムに溶けてみたい

幻想曲の模様

—心のかけらの万華鏡

憧れ 希求する心は壊れたかけらのようにさまざまな様相を持っているそれらが 幻想という即興的な想いの膨らみとなったときそれぞれの作曲家へふり降り心の傷を包み込んだ音とはどのようなものであったのかただただ 音に耳を傾けてみたいと思う

知の泉

作曲家がその音楽でもって立ち昇らせる概念その音が満ちていく様は「知の泉」ともいえるものだと音の渦の中に生への定義が聴こえてくる

劇場の世界

人生はままならないものだから劇になぞらえられるそのドラマの中に私たちは私たち自身をも見つけることができるかもしれないそしてこのままならない人生が愛しく思えてくるに違いない

ブラームスの想念

流れゆく時間に 人生の重みを思い返すそこに浮かぶのは 痛み揺れ動く気持ちを包んで沈めてくれるのは 愛が許しか それとも神なのかさまざまに浮かび上がるブラームスの想念の中に私たちの想いが交錯する

夢は何処へ

幸せを夢見るけれどその夢は 探したい幸せは いったい何処にあるのだろうか 問い続け 果てしなく追いかける幸せという夢 ベートーヴェンが シューベルトが 私たちに見せてくれる場所を 幸せを探してみたい

シューベルトの心の花

私たちは知っている自分という灯が いつか消えゆくことをシューベルトは 在ることのその先へ憧れを見た 透明な憧れを 彼が紡いだ音の一つ一つは 花卉となり 彼の心に 私たちの心に 幾重もの花がひらいていく

高雅な踊り

太古の昔から人には 身体には内なる踊りのリズムがあるそれは神へ捧げる祈りとなり愛する気持ちを表すものとなり 苦しいときには勇気を与え時に狂気すら呼び起こした 作曲家は必然として踊りの心の様を昇華させたそこには今を生きる私たちの願いや想いを重ねることができただろう

2025年 春のシリーズ

高雅な踊り



曲目
ベートーヴェン：
ピアノ・ソナタ第24番
「テレゼ」 Op. 78
ピアノ・ソナタ第25番 Op. 79
ピアノ・ソナタ第26番
「告別」 Op. 81a
リスト：
メフィスト・ワルツ第1番
「村の居酒屋での踊り」 S. 514
ラヴェル：
優雅で感傷的なワルツ
ショパン：
ワルツ「告別」 Op. 69-1
ワルツ Op. 64-2
ポロネーズ第6番「英雄」 Op. 53

2025年5月10日(土)
アクトシティ浜松 中ホール
問合せ：浜松市文化振興財団 053-451-1114

2025年5月17日(土)
兵庫県立芸術文化センター
KOBELCO 大ホール
問合せ：芸術文化センターチケットオフィス
0798-68-0255

2025年5月25日(日)
宗次ホール
問合せ：宗次ホールチケットセンター 052-265-1718

2025年6月1日(日)
サントリーホール
問合せ：ジャパン・アーツ ぴあ 0570-00-1212

2025年 秋のシリーズ

ラヴェルの狂気



曲目
ラヴェル：
鏡
水の戯れ
夜のガスパール

2025年9月27日(土)
長岡リリックホール
コンサートホール
問合せ：長岡市芸術文化振興財団
0258-29-7715

2025年9月28日(日)
サントミュージゼ
小ホール
問合せ：上田市交流文化芸術センター
0268-27-2000

2025年10月18日(土)
宗次ホール
問合せ：宗次ホールチケットセンター
052-265-1718

2025年10月19日(日)
アクトシティ浜松
中ホール
問合せ：浜松市文化振興財団
053-451-1114

2025年10月26日(日)
東京文化会館
小ホール
問合せ：ジャパン・アーツ ぴあ
0570-00-1212

2026年 春のシリーズ 音楽の哲学

曲目
ベートーヴェン：
ピアノ・ソナタ第30番 Op. 109
ピアノ・ソナタ第31番 Op. 110
ピアノ・ソナタ第32番 Op. 111
シェーンベルク：
6つの小さなピアノ曲 Op. 19

2026年5月23日(土) 兵庫県立芸術文化センター
KOBELCO 大ホール

2026年5月30日(土) アクトシティ浜松 中ホール

2026年6月6日(土) 宗次ホール

2026年6月14日(日) サントリーホール

仲道郁代と ベートーヴェン

仲道郁代はこれまで6度にわたるベートーヴェン全曲チクルスを実施しており、自身の音楽の核にはつねにベートーヴェンがあると語っている。「The Road to 2027リサイタル・シリーズ」の「春のシリーズ」のほか、2027年シーズンを目指して横浜みなとみらいホール、京都コンサートホールでのソナタの全曲演奏会や、サラマンカホールでの室内楽とソロを組み合わせたコンサートシリーズを実施。またピアノを含む室内楽全曲を網羅する意欲的なシリーズもヤマハホールで展開している。近年はオリジナル楽器での研究の成果も際立っており、新しいベートーヴェン像が確立されている。2022年12月にはブダペストのリスト音楽院にてハンガリー国立フィルとの共演でベートーヴェンの協奏曲「皇帝」を披露(写真)。陰影を伴う新しい「皇帝」像が打ち出され話題となった。



©MNF photo Attila Nagyí

仲道郁代 ベートーヴェン：
ピアノ・ソナタ全曲演奏会

横浜みなとみらいホール

2025年4月20日(日)
第6回〈告別～英雄的なるもの〉
問合せ：神奈川芸術協会 045-453-5080

京都コンサートホール 小ホール

2025年6月28日(土) 第4回〈英雄的とは何か〉
問合せ：otonowa 075-252-8255

仲道郁代
ベートーヴェンの宇宙

サラマンカホール

2025年11月29日(土)
第4回〈ウィーンとナポレオン〉
問合せ：サラマンカホールチケットセンター
058-277-1110

仲道郁代 OFFICIAL YOUTUBE CHANNEL

The Road to 2027の
関連動画



2021年 秋のシリーズ
「幻想曲の模様」

～心のかけらの万華鏡」(対談)



2022年 秋のシリーズ
「前奏曲」

～永遠への兆し」(鼎談)



2023年 秋のシリーズ
「ブラームスの想念」(対談)



2020年 秋のシリーズ
「ドビュッシーの見たもの」



2022年 春のシリーズ
「知の泉」(アナリゼゼ)



2023年 春のシリーズ
「劇場の世界」(アナリゼゼ)



2024年 春のシリーズ
「夢は何処へ」(対談)



2021年 春のシリーズ
「幻想曲の系譜」
～心が求めてやまぬもの」



2022年 春のシリーズ
「知の泉」
ムソルグスキー 《展覧会の絵》より
《キエフの大きな門》



2023年 春のシリーズ
「劇場の世界」(対談)



2024年 秋のシリーズ
「シューベルトの心の花」
(対談)



仲道郁代 PROFILE

日本で最も求められ続けているピアニストの一人。音楽から神聖さ、親密さを見出してパーソナルなピアノの音として立ち上らせる独特の演奏スタイルは多くの共感を得ている。仲道はデビュー以来35年以上にわたって常に高い人気を保ち続けている稀有な存在である。日本では全国各地で彼女のコンサートを望む声を受け続け、延べ2500回を超えるリサイタルを実施してきた。十代の頃にアメリカ・ミシガン州に住み、またミュンヘンで学んだことが彼女の音楽観に深い影響を与

えているが、細やかさや繊細さ、他者との深い共感性を同時に持ち合わせているところが、彼女のピアノの魅力の一つとなっている。令和3年度文化庁長官表彰、ならびに文化庁芸術祭「大賞」を受賞。ジュネーヴ国際音楽コンクール最高位、メンデルスゾーン・コンクール第1位メンデルスゾーン賞、エリザベート王妃国際音楽コンクール第5位ほか、受賞歴多数。一般社団法人音楽がヒラク未来代表理事、一般財団法人地域創造理事、桐朋学園大学教授、大阪音楽大学 特任教授。

公式ウェブサイトを



メールマガジン登録

